



日本哺乳類学会2009年度台北大会 プログラム・講演要旨集

役 員：林 良博（大会長），押田龍夫（大会実行委員長）
遠藤秀紀（大会事務局長）

会 期：2009年11月21日(土)～24日(火)

会 場：台湾大学

事務局：日本哺乳類学会2009年度台北大会実行委員会

〒113-0033 東京都文京区7-3-1

東京大学総合研究博物館

TEL: 03-5841-2848

E-mail: msj2009@um.u-tokyo.ac.jp

24A-3 柵による外来哺乳類マンガースの行動抑止効果について

○飯島康夫¹・河内紀浩²・山下勝弘²・小坂奈月²・小林海央²・森田 覚²

八千代エンジニアリング㈱九州支店¹・八千代エンジニアリング㈱沖縄事務所²

1. マングース対策における柵の効果と副作用

1910年に沖縄にマンガースが移入されて100年を迎えようとしている(1910年4月14日沖縄毎日新聞など)。現在、マンガースは沖縄島のほぼ全域に広がり、やんばる地域の在来生物に大きな影響を与えている(小倉ほか2002など)。南部からの侵入を阻止する目的で2005年～2007年にやんばる地域のほぼ南限に総延長約4.2kmのマンガース侵入防止柵が設置され(嘉数ほか2006など)、その効果はパイマーカーとしてローダミンを用いた実験的捕獲で確認された(山下ほか2008)。山下ほか2008は柵南側に設置したローダミン入りの餌を食したマンガースが柵を越えて確認されなかったこと、柵により生息密度が南北で大きく異なってきたことを示した。このように柵は在来生物をマンガースから保護する手法としては効果的である。一方で、在来生物への影響も生じており、リュウキュウヤマガメ(*Geoemyda japonica*)とカニ類(例えば*Sesarmops intermedium*)が柵により行動を抑制されている(飯島ほか2008)。また、メンテナンス(柵の修復や周辺の草刈など)は「やんばるマンガースバスターズ」(現地のマンガース捕獲作業員の方々)に頼っているのが実情である。

2. 簡易柵の効果

本発表では沖縄県における外来生物マンガース対策の実情を紹介するとともに、簡易柵によるマンガースの行動抑止効果とマンガース防除への適応の実験を行ったので報告する。簡易柵は高さ約70cmの安価なネット柵で、ゲージ実験ではマンガースが簡単に越えられるが、現地実験ではその行動を規制できることを確認した。